ごん吉くんしポート ～南吉よもやま話～

第24回 南吉が作成した英語の答案用紙

昨年12月、かつて安城高等女学校で南吉から英語を教えてもらったという方から、南吉が作成した英語の答案用紙4点を寄贈していただきました。

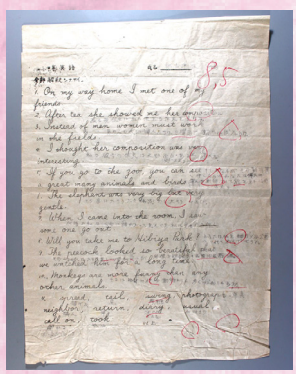
寄贈してくださったのは、新城市在住の林志津枝（はやししずえ）さん。昭和16年に安城高女に入学した22回生で、1、2年生のときに南吉から英語を教わっています。

南吉が安城高女の教壇に立っていたのは、昭和13年から結核のために休職することになる昭和17年末までの約5年間のことです。昭和13年に入学した19回生の学級担任のほか、国語や農業、そして全学年の英語を受け持っていました。南吉は東京外国語学校で英語を学んでおり自分の力を存分に発揮できる仕事だったといえます。

生徒は、女学校に来て初めて英語を学ぶ12歳から16歳の少女たち。南吉は最初のうちは教科書を使わずに、黒板に人体の絵を描くと、目や鼻などの名称を英語で書いて発音を練習させたり、生徒たちを校庭に連れ出すと、「空はｓｋｙ、色はｂｌｕｅ」、木にふれて「ｔｒｅｅ」などと言いながら単語を教えたりと、慣れない英語に親しんでもらおうと工夫していました。英語の授業を楽しみにしていたという方もいますが、中には、南吉のことを厳しかったと記憶している人もいます。授業が始まると、英語で指示を出して生徒たちにその通りの動作をさせたり、教室に入るや英語で生徒たちに話かけ、それに答えられないと廊下に立たせたりすることもあったとか。少しでも英語を身につけさせたいという南吉なりの愛情だったのでしょうが、英語が苦手だった生徒には、南吉のことも苦手に感じられたかもしれません。

今回いただいた答案用紙は定期考査で使われたものと思われます。大半は英文の解釈を書かせる問題ですが、現在進行形や感嘆文などもあり、今の中学生と変わらないレベルの英語を学んでいたことが分かります。

林さんが女学校に通っていた時期は太平洋戦争と重なります。中学生の頃に答案用紙を見つけた長男の亨（とおる）さんは、母親が女学校で英語を学んでいたことに驚き大事に保管されていたそうです。女学校時代の思い出を話しながら「答案用紙をさし上げるなんて恥ずかしいわ」と照れて笑う林さんに、少女時代の面影を見たようでした。



▲林さんが2年生で受けた考査の答案用紙

第八回 はんだ山車まつり 公式認定グッズ 募集

第八回はんだ山車まつりを広く全国に発信し、まつりを盛り上げるため、公式認定グッズを募集しています。認定された商品は随時販売でき、山車まつり当日も公式認定グッズ販売所にて販売します。はんだ山車まつりをイメージした魅力ある商品をお待ちしています。

■募集期間　5月31日（水）まで

■申込み・問合わせ

半田商工会議所、観光課または、「第八回はんだ山車まつり」ホームページ（http://handa-dashimatsuri.jp/）にある申込要項に必要事項を記入の上、サンプル品と一緒に観光課へ直接お持ち頂くか、郵送してください。

〒475-8666　半田市東洋町2-1　観光課　☎84-0689

編集・発行　半田市企画課　〒475-8666 半田市東洋町二丁目1番地　☎0569-21-3111（代表）　FAX0569-25-2180
毎月1・15日発行（5月・8月・12月は月1回）　http://www.city.handa.lg.jp/　Eメール　kouhou@city.handa.lg.jp
VEGETABLE OIL INK　植物油インキ使用　再生紙使用
印刷　東海通信印刷㈱